

声

花催いわたしはドナーにもなれない
ぱりんとした産声のしてフリージア
成人になって乗るぶらんこが冷たい
安物のリコーダーから蝶生まる

あじさいのくしゃりと踏める三歳児
ことさらにパンダ転がる梅雨の明け
夕暮れが夏野にぼんやりと倒れる

教科書の苗字を二重線で消す

「遠足」とすぐく笑っている手話で

金魚掬いの袂が母のそれに似て

夏期講習会に転がした鉛筆

トマトクリームパスタ美味しい夏休み

水羊羹切って美しい物陰

ソフトクリームをずっと置物が見ている

アルバムの中に花火が畳まれる

死者の数増えてラベンダーがちらほら

朝起きて燕の巣だけが空っぽ

人気のない長靴に住む星明り

あかねさす起承転までは順調

風冴えて二人の距離がやけに遠い